

# 九州風景街道の活動の特徴と参加者の意識\*

## Properties of the Kyushu Scenic Byways Activities and Their Participants' Consciousness \*

出口近士\*\*・吉武哲信\*\*\*・永山昭二\*\*\*\*

By Chikashi DEGUCHI\*\*・Tetsunobu YOSHITAKE\*\*\*・Shoji NAGAYAMA\*\*\*\*

### 1. はじめに

平成 15 年に「観光立国行動計画」が策定され、良好な景観形成を通じた「日本の魅力・地域の魅力の確立」がうたわれ、平成 16 年に制定された景観法の基本理念では「景観形成は、地域の個性を伸ばすような多様な形成を図るべき」であること、「景観形成には、観光や地域の活性化への配慮が必要」であること、「景観形成は、住民、事業者、行政の協働によりすすめるべき」であることが挙げられている。このような背景もあり、道路整備において、単に車が走るためだけではなく、景観に配慮した道づくりや、沿道の資源を活用した地域の活性化が求められてきている。

この手本としてアメリカで発祥したシーニックバイウエイがある<sup>1)2)</sup>。これは、沿道、地域、道路などにある空間を一体にとらえ、新しい道路空間の形成を目指すという考え方である。この考えの下に北海道でシーニックバイウエイが導入され、地域住民と行政が一体・連携し、地域の沿道景観や自然・景観・文化・歴史の保全・整備に取り組んできている<sup>3)</sup>。

わが国においては平成 18 年 1 月に日本型シーニックバイウエイとして『日本風景街道 (Scenic Byway Japan)』と名称された。日本風景街道は、“郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見、創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創出する運動を促し、以って、地域活性化、観光振興に寄与し、これにより、国土文化の再興の一助となる”ことを目的としている<sup>4)</sup>。平成 19 年 12 月現在で、91 ルートが風景街道として登録されている。

本稿は、九州における 9 ルートの風景街道 (以下、九州風景街道と記す) の活動に関与している行政 (国・県・市町村)、民間団体 (協議会や NPO など)、事務

\*キーワードズ: シーニックバイウエイ、日本風景街道

\*\*正会員、工博、宮崎大学工学部土木環境工学科

(〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番、  
TEL0985-58-7329、FAX0985-58-7344)

\*\*\*正会員、博士(工)、宮崎大学工学部土木環境工学科

\*\*\*\*非会員、(株)レオパレス21

局担当者を対象に、九州における風景街道の活動現状を把握し、その特徴や課題を、1) 組織形態、2) 活動形態、3) 情報・広報活動、4) 財源の視点から整理・分析・考察するものである。

### 2. 九州風景街道の概要

九州では、平成 19 年 11 月日時点で図-1 に示すように 9 ルートが風景街道の活動に取り組んでいる。各ルートの構成団体を表-1 に示すが、構成組織はかなりの数に上る。

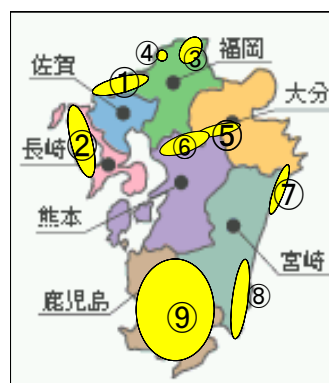


図-1 九州風景街道の 9 ルート

表-1 9 ルートの構成団体数

ルート名		構成団体数
①	日南海岸きらめきライン	【民間】38団体 【行政】19団体
②	日豊海岸シーニック・バイウエイ (蒲江・北浦大漁海道)	<<大分県側>> 【民間】20団体 【行政】13団体
		<<宮崎県側>> 【民間】5団体 【行政】14団体
③	ながさきサンセット・オーシャンロード	【民間】54団体 【大学】1団体 【行政】13団体
④	北九州おもてなしの”ゆっくりかいどろ”	【民間】26団体 【行政】8団体
⑤	唐津街道むなかた	【民間】2団体 【行政】6団体
⑥	かごしま風景街道	【民間】36団体 【行政】9団体
⑦	玄界灘風景街道	【民間】20団体 【行政】9団体
⑧	九州横断の道 やまなみハイウエイ	【民間】41団体 【行政】19団体
⑨	九州横断の道 阿蘇くまもと路	【民間】14団体 【行政】12団体
		【民間】257団体 【行政】122団体 【合計】379団体

平成 19 年 11 月 26 日時点

表-2 九州風景街道の組織と活動内容の概容

ルート	項目	代表者所属組織		事務局		地理的特徴		景観	観光			地域活性化・振興	
		官	民	官	民	沿岸	海岸		歴史	文化	体験	イベント	特産
1	玄界灘風景街道		○					○	○	○	○		
2	ながさきサンセット・オーシャンロード		○		○			○	○	○	○	○	○
3	北九州おもてなしの“ゆっぴりかいどう”		○	○	○			○	○	○			
4	ちよつとよりみち 唐津街道むなかた		○		○			○	○	○			
5	九州横断の道 やまなみハイウェイ		○	○	○	○		○	○	○	○		
6	九州横断の道 阿蘇くまもと路		○	○	○	○		○	○	○	○		
7	日豊海岸 シーニック・バイウェイ		○	○	○	○		○	○	○	○		○
8	日南海岸きらめきライン	○	○	○	○			○	○	○	○		
9	かごしま風景街道		○	○	○			○	○	○	○		

九州風景街道の推進体制は「九州風景街道推進会議」と「九州風景街道ルート代表者会議」からなる。

「九州風景街道推進会議」の役割は、九州風景街道の運営・改善や基本方針の策定、支援施策の企画・立案・実施等で、年1回程度開催される。「九州風景街道推進会議」の下には「基本問題小委員会」と「行政連絡小委員会」がある。「基本問題小委員会」は、九州風景街道のための具体的取組の検討等を行い、年4回程度（随時）開催される。「行政連絡小委員会」は、関係行政機関の連絡・調整等を行い、年1回程度開催される2つの委員会が設置されている。また、「九州風景街道ルート代表者会議」の役割は、各ルートの情報集共有化や連携・交流促進等を随時実施する。「九州風景街道推進会議」が九州の風景街道ルートを支援し、事務局が調整を行い、事務局が双方を調整する体制が取られている。

表-2は各ルートの組織と活動内容の概容であり、2ルートが内陸部で、沿岸部が7ルートと多い。また、日南海岸きらめきラインは官と民が共同して風景街道登録時の代表になっている他は全て民間が代表組織となっている。なお、全てのルートにおいて“景観保全”と“歴史的資産の活用”が活動内容となっている。また、ながさきサンセット・オーシャンロードにおいては、“イベント”が掲げられている点が他ルートと異なる。

### 3. アンケート調査

これらの9ルート（行政団体123、民間組織256の合計379団体）の代表者や担当者に対して、平成19年12月にアンケート調査を実施した。アンケート項目および質問項目を表-3に示す。

アンケートの実施および回収方法は、風景街道の行政側事務局に宅急便で郵送し、事務局から各団体に郵送配布し、郵便で返送してもらう方法をとった。その結果、表-4に示すように379団体のうち43%にあたる163団体から回答を得た。

**【活動への参加】** 図-2に活動への参加経験を示すが、回答者のほとんどに活動経験があり、九州風景街道が活発化してきていることが窺える。

表-3 アンケート調査項目

アンケート項目	質問項目
(1) 組織形態に関する項目	(a) 所属組織と参加・参画した活動 (b) 風景街道活動における所属組織の役割
(2) 活動形態に関する項目	(c) 地域資源の活用に関して (d) 景観保全・整備などにおける課題 (e) 景観診断における取り組みや課題 (f) パートナーシップ(協議会)に与えて欲しい権限 (g) 風景街道の活動の状況
(3) 連携・協働体制に関する項目	(h) 風景街道全体での取り組み (i) 参加・参画して欲しい活動 (j) 連携・協働の状況と課題
(4) 情報広報・PRIに関する項目	(k) 情報収集、共有化、広報における実施主体 (l) 情報提供の方法 (m) 風景街道における情報収集、共有化、広報の満足度 (n) 情報交換や視察の有無と課題
(5) 財源に関する項目	(o) 風景街道活動における活動資金について (p) 風景街道の活動における課題

表-4 アンケート回答の内訳

風景街道ルート	民間			行政			合計
	団体数	回収数	%	団体数	回収数	%	
玄界灘風景街道	20	12	60	9	7	78	66
ながさきサンセット・オーシャンロード	54	24	44	14	4	29	41
北九州おもてなしの“ゆっぴりかいどう”	26	6	23	8	4	50	29
ちよつとよりみち 唐津街道むなかた	2	2	100	6	5	83	88
九州横断の道 やまなみハイウェイ	41	17	41	19	15	79	53
九州横断の道 阿蘇くまもと路	14	4	29	12	4	33	31
日豊海岸 シーニック・バイウェイ	25	1	4	27	18	67	37
日南海岸きらめきライン	38	12	32	19	10	53	39
かごしま風景街道	36	11	31	9	7	78	40
合計	256	89	35	123	74	60	43

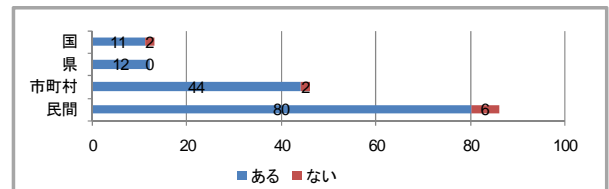


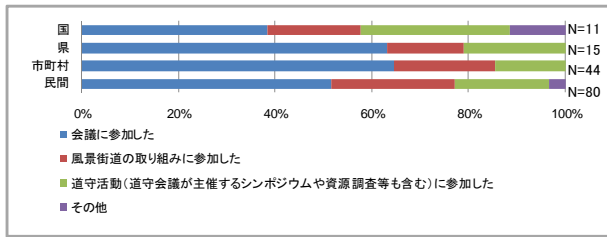
図-2 風景街道の活動への参加の有無

#### 【活動内容】

図-3は参加の内容である。いずれの組織も「風景街道の取り組みに参加した」との回答比率よりも「会議に参加した」の方が高く、風景街道の活動が初動段階にあると推察できる。また、道守九州会議<sup>5)</sup>の「道守活動に参加した」の回答比率は、国と県においては「風景街道の取り組みに参加した」の回答比率よりも若干高い。市町村と民間については道守活動の方が若干低いものの概ね同等である。以上は、道守活動が先導していることを示唆するもので、九州風景街道活動を特徴づけている。

#### 【組織の役割の現況】

図-4は「風景街道活動における所属組織の現在の役割」である。[風景街道における活動計画の策定]は、県の回答比率が若干高いが、国、県、市町村、民間ともに約20%が活動計画策定の役割を担っている。民間の



図一 3 風景街道活動に参加した活動形態

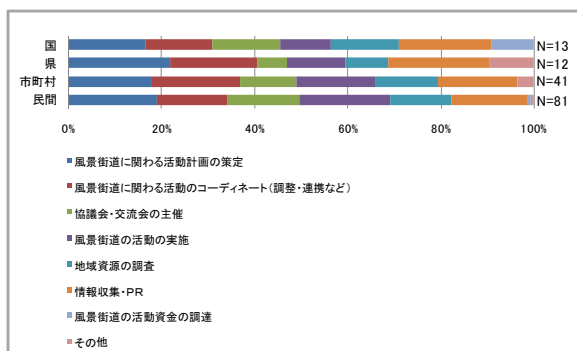
回答比率が行政と同等であることは、活動計画の策定段階で“官民のパートナーシップ”が形成されつつあるといえよう。

【活動のコーディネート（調整・連携など）】については、県と市町村が若干高く、国と民間の回答比率がほぼ同等になっている。県は国と市町村の両者の調整を、市町村は国・県と民間の間であって調整・連携を担っていると推察される。

【協議会・交流会の主催】については、県の回答比率が他に比べて低い。これは、九州風景街道の推進において、提唱・主導する国と市町村・民間の間であって、協議会・交流会の主催に対する役割分担を量りかねているとも受け取れよう。

【風景街道の活動の実施】についてみると、国→県→市町村→民間と順に回答比率が高くなっている。国土交通省の始動した施策が、九州風景街道活動では民間活動の活発化へと繋がる傾向が現れている。

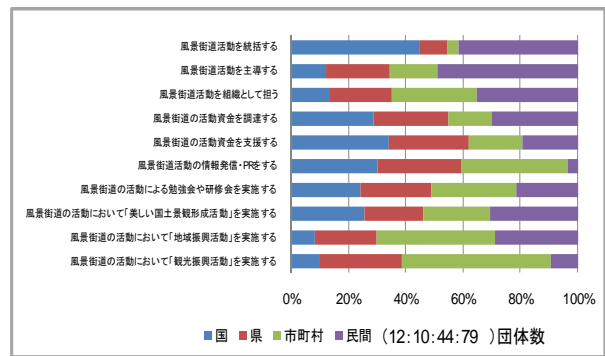
【風景街道の活動資金の調達】については、国 5 団体と民間 3 団体のみが担っているという結果であった。現時点では県と市町村は独自の予算を持たず、人的な関与にとどまっている現状が窺える。また全般に資金調達が低調であることを示している。



図一 4 風景街道における所属組織の役割

### 【組織に担ってほしい役割】

図一 5 は、所属組織の担うべき役割についての問いで、『風景街道の活動では、行政団体や民間組織等のパートナーシップが重要と考えられています。それぞれの組織の役割は何だと思えますか？』に対し、163 団体中 145 団体（国：12、県：10、市町村：44、民間：79 団体）の回答があった。



図一 5 所属組織が担って欲しい役割

【風景街道活動の統括】については、国が最も多く約 45%で、次いで民間で約 40%である。この結果から判断すれば、関係者は『九州風景街道におけるパートナーシップ』の主体は、主として国と民間組織であると考えており、民間グループの自覚度が高い。

【風景街道活動の主導】については、民間組織が 1 番で約 50%を占める。行政については、国、県、市町村はほぼ同じ比率である。「統括」と同様、民間の意識が高い。

【風景街道活動を担う組織】については、上述の【主導】に比べて市町村の役割が増え、民間と市町村が中心、という意識が現れている。

【風景街道の活動資金調達】については、国、県、市町村および民間への期待は順に約 30%、25%、15%、30%である。これに関連して、【風景街道の活動資金支援】については、資金調達と比較すれば国の比率が高く、民間の比率が少ない。資金の調達と併せて考えれば、資金面でのパートナーシップは、国、地方自治体（県・市町村）、民間が概ね均等に負担することが期待されると解釈できよう。

【風景街道の情報発信・PR】については民間の比率は 5%以下であり、情報発信は行政の役目であると考えられている。

【風景街道の勉強会や研修会の実施】・【美しい国土景観形成活動の実施】どちらも国、県、市町村、民間とも約 25%前後で、ほぼ均等である。

【地域振興活動の実施】については、国の比率が 10%程度と低く、市町村比率が 40%と高く、次いで民間となっている。あわせて、【観光振興活動の実施】でも国の比率は 10%と低い。逆に、県と市町村の役割がそれぞれ 30%と 40%と高くなっており、地域振興は市民と市町村、観光振興は、主に自治体（県・市町村）が担うべきと考えられている。

### 【組織に担ってほしい役割】

図一 6 は参加して欲しい活動を問うたものである。上段の回答で「道路などの整備」の項目を除けば、民間の活動への期待が小さくない。下段は、これらの比率を単純に加算したもので、国、県、市町村、民間の比率は概ね均等となっている。

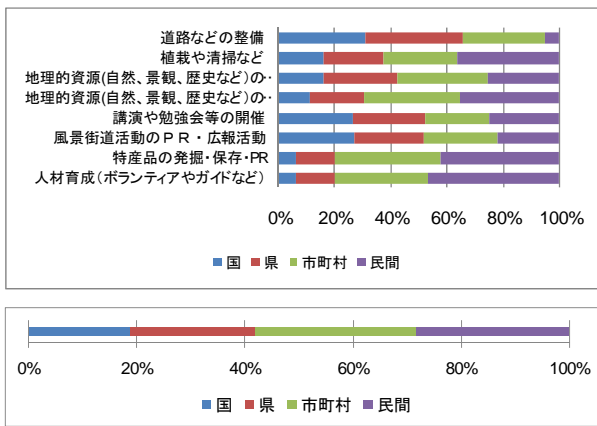


図-6 参加してほしい活動

### 【景観保全】

民間組織での景観保全・整備のための取り組みの有無を89団体に問うた。回答が得られた80団体中60団体が景観保全・整備のために取り組みを行っており、残り20団体は行っていないという結果が得られた。そこで、60団体にどのような課題があるかを問うた結果を図-7に示す。60団体中32団体が、「道路景観形成の必要性に対する考え方の違い」、27団体が「環境問題(沿道周辺のゴミなど)」、25団体が「屋外広告物」などと答えている。

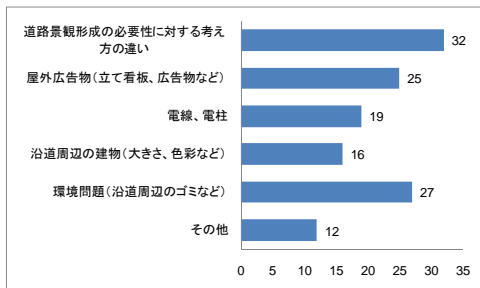


図-7 景観保全の課題

### 【活動資金の課題】

風景街道に関わる活動費に関する課題を問うた。その109団体(国6、県11、市町村36、民間56団体)からの回答を図-8に示すが、いずれの組織も活動費の確保に苦慮している状況にある。とりわけ民間組織が活動を継続・展開していくためには、資金運営の仕組み(活動資金の捻出循環方法など)を育成する必要があると考えられる。

## 5. まとめ

1)九州風景街道の活動は「道守九州会議」が先導している点に特徴があり、民間団体の活動も活発化しつつある。

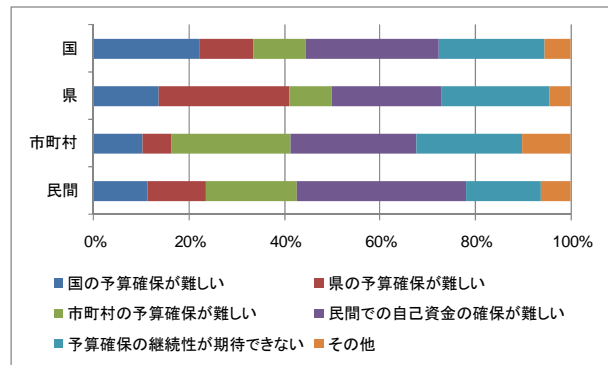


図-8 財源(活動費)の課題

- 多くのルートで資金確保に苦慮していると推察されるが、関係者は国、県、市町村と民間が概ね均等に確保すべきと考えている。
- 『官・民のパートナーシップ/協働』の関係は“行政と民間”の単純な2者関係ではなく、活動内容によって、国、県、市町村、民間の分担割合が異なる。なお総体的には、4者が概ね等分に分担することが期待されている。
- 以上より、九州風景街道活動においては民間グループが主体的・中心的役割を果たしつつあるといえる。国、県、市町村、民間の役割分担については、空間的・行政的な視点を加味すれば、市町村は民間ボランティア組織と連携・協働・分担して主に地域振興を担い、県は協議会と協働して市町村間で活動を連携させて地域振興と観光振興を主導し、国はルート間の連携および九州風景街道の各ルートを連携させる役割が期待されよう。

謝辞：本稿の成果は(社)日本都市計画学会九州支部九州地域の交通路と観光・地域活性化の連携に関する調査・研究分科会の一部である。また、アンケート調査は国土交通省九州地方整備局、および九州風景街道の関係者のみなさんの協力を頂いた。ここに感謝申し上げます。

### 参考文献

- 宮武清志・石田東生・和泉晶裕：シーニックバイウェイ制度に関する比較研究—米国と北海道—, 2005.
- 藤原史明：アメリカ合衆国シーニックバイウェイ制度の調査と本県での取り組みに関する考察, 兵庫自治学 (13), 37~42, 2007.
- 田中寿明・佐藤寛人・宮本史大・和泉晶裕：住民が連携した沿道景観の保全及び利用活動～「シーニックバイウェイ北海道」を事例として～, 2005.
- 日本風景街道：日本風景街道とは <http://www.hido.or.jp/fukeikaidou/about.html>
- 九州道守会議：<http://www.michimori.com/>